

つくばで行われる素敵な取り組みを身近な人に伝えよう！

1 目的

解決を目指す課題・背景

つくば市では都会にも負けない、魅力的で素敵な取り組み・イベントが行われているのに、あまり認知されていないと個人的に感じています。もっと色々な人々にその魅力が伝わり、会話をすることで盛り上がるといいな、と思いました。

SDGsとの関連性



それぞれが抱える困りごとに対して対応可能な団体や取り組みがつくば市には多くあります。



つくば市で行われている取り組みやイベントは実に多種多様で魅力的なものが多いです。

取組内容

つくば市で行われるイベントなどに家族で参加して、その魅力や感想を身近な人々に話すことで、つくば市の魅力についてお互いの理解度を高め合いました。主な参加イベントは以下の通り。

【1】つくばフェスティバル

日時：2023年5月

場所：つくばセンター広場



【2】小児がん支援のためのレモネードスタンド

日時：2023年6月

場所：つくばセンター広場

【3】つくばSDGs TRY Eチーム 穴塚の里山ウォークラリー

日時：2023年7月

場所：穴塚大池



【4】エコフォーラム

日時：2023年7月

場所：国際会議場

【5】つくばSDGs TRY Bチーム おやこの笑顔応援フェスタ

日時：2023年7月

場所：イオンモールつくば

【6】つくばちびっ子博士

日時：2023年7～8月

場所：各種機関、団体



【7】竹園土曜ひろば

日時：毎月第1,3土曜日

場所：竹園土曜ひろば



その他多数

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

つくスマや広報つくばなどでも各種取り組みやイベントの紹介が多くあるので、情報を見つけようと思えば見つけやすいです。

口コミやSNSなどを活用すればもっと情報を簡単に入手することができます。

持続可能性

既に取り組まれているイベントなどに参加することなので、特に負担はかからないため持続可能性は高いと思われます。

みどりのSDGs大作戦

1 目的

解決を目指す課題・背景

みどりの学園児童クラブでは、以下の理由から子供達と一緒に『みどりのSDGs大作戦』に取り組んだ。

理由① クラブで草刈りした後の雑草は燃えるごみとして出していますが、クラブに役立つようなリサイクルはできないか。



理由② 園庭の土がコンクリートのように固く子供達が転んだ時に痛い。怪我の防止のためにも、柔らかい土にできないか。

SDGsとの関連性



燃えるごみを減らそう

可燃ごみとして出していた草刈り後の雑草をコンポストで処理することで、ごみの削減を目指す。小さな取り組みですが二酸化炭素の排出量を減らすことができます。



土壌改善に取り組みみどりいっぱい園庭を取り戻そう

コンポストでたい肥化した土を園庭に戻し、土壌改善に取り組みます。柔らかい土とクローバーがいっぱいだっただ園庭を取り戻し、子供達が安全に遊べるようにします。

取組内容

【実施内容】

- ・雑草を燃えるゴミにせず、コンポストでたい肥化し、できたたい肥を庭にかえすことで、園庭の土壌改善を図る。
- ・子供達に『みどりのSDGs大作戦』についてして説明し、外遊びの時間を利用して一緒に取り組んだ。



- ・コンポストは園庭の隅に設置し、子供達がいつでも中の様子が見れるようにした。

【結果】

- ・ふかふかのたい肥ができつつある。5月から9月までの4か月で燃えるごみの削減量は約340kgにもなり、ごみの削減には大きな成果を得ることができた。春にはたい肥を園庭にかえし、子供達が大好きなクローバーを増やしたいと思います。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

今回のみどりの学園児童クラブでの取り組みは、雑草や枝が柔らかい土にかえれば良いため、コンポストの管理も気負わず取り組みます。

子供達が遊びの一環として、一緒に作業に取り組むことができるのも、児童クラブならではのです。



持続可能性

コンポストに必要なもの

- ・畔板（田んぼの畔に使う板）3枚 3000円程度
- ・ブルーシート（コンポストにかぶせるため） 500円程度
- ・米ぬか 無人精米所から無料でもらう。
- ・雑草 子供達と一緒に草取り。

以上

コンポストは1度、作れば何年かは使用できるため、非常にコストパフォーマンスは良いと思います。

社会貢献に率先実行

1 目的

解決を目指す課題・背景

昨今、世界中で発生している気候変動による災害に対して、未来の環境に、命に貢献する産業の発展を実現させる商材の取扱いと共に、政治的、経済的理由による世界の不平等を知り、貢献できる方法を調べ、実行に移す事を最優先しました。

そこから従業員各自の認識を高め、更なる取組みに繋がられるよう努力致します。

SDGsとの関連性



様々な理由による不平等から、生命の危機に直面している実情を知り、貢献できる事を調べ、実行に移す。



日本国内のみならず、経済的、政治的理由による不平等を知り、貢献できる事を調べ、実行に移す。



必要な物として製造された商材を使用した後の有効活用法について調べ、廃棄するだけでなく有効活用できる方法を積極的に調査し、実行に移す。

取組内容

2023年11月9日

「つくば市フードドライブキャンペーン」に協力参加する事により、フードバンク茨城を通じて社会的支援を行っている施設や団体様に食料品を提供させて頂きました。

2022年12月2日

2023年10月27日

2023年7月3日

「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを」の活動にペットボトルキャップ、切手の寄付に協力参加する事により、世界の乳幼児にワクチン接種をご提供させて頂きました。

(ちなみにStaff各自、ビジネス関連文書の電子化、リサイクルステーションの積極利用等に取組む事は、基本としております。)

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

- <https://www.tsukuba-sdgs.jp/page/page000633.html>
- <https://www.jcv-jp.org/>

URL情報にあるように、活動、目的共に解りやすく、誰にでも取組みやすい活動です。

持続可能性

費用をかけて特別な事に取り組むべきだ、とハードルを上げたり、1回限りの活動に終わるのではなく、

先ず日々の生活の中に社会貢献に繋がる行動がもっとあるのではないか、という足元の取組みに目を向け、皆で協力して調べ、難しく考えず率先行動、という実践を大切にしました。

手のひらから始まる環境保護 コンポストん

1 目的

解決を目指す課題・背景

・コンポストの仕組や意義を学ぶ環境教育 4

令和3年度の家庭系ごみのうち、生ゴミは重量比で約4割。とくにコンポストに適している調理くずが全体の約4分の1です。しかし、コンポストは、においや虫の心配、管理の大変さがネックとなり、なかなか実践できない人が多いです。

私達は、小型のコンポストんを小学生の学校教育に取り入れることで、仕組や意義、そして面白さを学んでもらう機会を提供したいです。子供の頃に触れることで、大人になったときにも実践しやすいはずです。

・家庭からでる生ゴミの削減 13 15

コンポストんの活用により家庭からでる生ゴミを削減します。また、これをきっかけとして大型のコンポストを活用したり、継続してコンポストんを活用したりする人の増加を見込みます。

SDGsとの関連性



焼却処理する生ゴミを減らし、CO2の排出を削減する。



生ゴミから堆肥を作り、家庭菜園に利用する。



子供がコンポストの面白さを体験することで、大人になっても生活に取り入れやすくなる。

取組内容

①コンポストんの考案：

コンポストんとは私たちが考案した環境学習用小型コンポストです。基材はダンボールコンポストと同じです。特徴は、1) コンパクト、2) 対照実験ができる2個1セット、3) 洗濯ネットで簡単に虫防止、です。1セットのコストは210円ほどと非常に安価です。箱には豚をあしらひ、かわいらしさを演出しています。

②③主体・対象者：

現在は開発して普及活動をしている段階ですが、主体は考案者である私たち、対象者は小学生を想定しています。

④時期・期間：

2023年度に考案しました。普及を目指して『高校生みんなの夢アワード』(<https://yumeaward.org/school/>)に参加し東京でプレゼン(2023.8.8)する機会を得ました。

またそのご縁から『SDGS AICHI EXPO 2023 (2023.10.5-7)』(<https://sdgs-aichi.com/>)に出展することができました。

⑤場所：

アイデアを発表したのは東京と愛知です。活動拠点はつくばです。普及させたいのは全国です。

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

材料はすべて身近な物なので、だれでもすぐに始められます。定期的につくば市が配布しているダンボールコンポストの基材を、コンポストん用にも使わせていただけたらさらに取り組みやすいです。

ダンボールコンポストだと、屋外管理になり、虫の問題もあるので、子供に任せることが難しいですが、コンポストんは小さく、屋内でも管理しやすいので子供に任せられます。

持続可能性

小学校の3年生の授業で取り入れ、4年生の野菜の栽培で堆肥をつかうルーティーンが出来れば素晴らしいと思っています。コンポストんの対照実験は夏休みの自由研究にもピッタリです。

朝散歩ゴミ拾い

1 目的

解決を目指す課題・背景

まちをキレイにすることを目的としています。

日本、つくば市は他の国や地域と比べるとポイ捨てなどまちに落ちているゴミは少ないですが、植木の間や道の端などにプラスチックゴミやタバコの吸い殻を見つけることがあります。プラスチックはマイクロプラスチックとなり海に流れ生態系を破壊する恐れ、人間に悪影響を与える可能性があります。また、タバコの吸い殻は火災の原因になる確率が非常に高いです。

環境問題の深刻化は止まりません。少しでも被害を少なくしようという思いで活動をしています。

路上に落ちているゴミは環境だけでなくそのまちの治安を悪くする可能性が高いです。割れ窓理論のように、ゴミが落ちているとどんどんポイ捨てが増えていくことが考えられます。何より、ゴミが落ちていると少し不快な思いをすることは誰でもあると思います。皆が住みやすいまちづくりという上で路上にゴミが落ちていないことは大事な要素であると考えます。



SDGsとの関連性



ゴミを拾うことでまちの植物や生き物の生態系を守ることができます。地球温暖化対策は近年とくに重要視されています。まちのゴミ拾いは小さなことではありますが続けていくことで被害を減らすことができます。



美しいまちは人々の心を豊かにします。皆が心地よく暮らすために身近な場所をキレイに保つことは社会的にも大きな影響があります。

歩くことによって自分の住んでいるまちですが日々新しい発見があります。普段見ることのない場所に注目しながら歩けることはゴミ拾いならではの。



プラスチックゴミなどから出る有害な化学物質は大気、水などの汚染の原因で健康被害を及ぼすこともあります。ゴミ拾いで病気のリスクを減らすことができます。また、朝ゴミ出し前に、ゴミ拾いのため近所を歩くことで健康にもよいです。日光を浴びることは日々の良質な睡眠に絶大な効果があるといわれています。

取組内容

毎週月曜日と金曜日の「燃やせるゴミの日」の朝20分ほど近所を歩いてゴミ拾いをしています。ルートははっきりとは決めずに公園に立ち寄りたりもしています。

家族で取り組んでいます。できる人ができる時に取り組むので義務感がなく負担がないです。（基本的に雨が降っていない限り行っています）

燃やせるゴミとして分別できるものはそのまま手持ちのゴミ袋に入れます。ペットボトルや缶を拾ったときは家に持ち帰り中身をキレイ洗って乾かしてからリサイクルに出しています。



汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

朝の20分、ゴミ出し前、できる時に行くという点からとても負担が少ないです。主なゴミは燃やせるゴミになるので家に持ち帰り日にちを置いてからゴミとして出す必要はなく、その日のうちに出すことができます。もちろん大勢でもできますが個人に行えるのでいつだれでも取り組むことができます。

持続可能性

家を出る「燃やせるゴミ」と一緒にゴミ出しをするので新しいゴミ袋は特に必要ないのでエコで安価です。いつでも無理せずに活動できるので精神的な負担はないです。歩くことで健康的で宝さがしをするように楽しくできることも持続可能性があります。また、その日のゴミが少ないとまちのきれいさにうれしくなります。

ジョグパトで安全・安心なまちづくりに貢献しよう！

1 目的

解決を目指す課題・背景

ジョグパトとはジョギングパトロールの略で、日常のウォーキングやジョギング、ペットの散歩中に、地域のパトロールやゴミ拾いを行うボランティア活動です。

ゴミが捨てられたまま放置されると街の景観や衛生が損なわれるとともに、治安の悪化を招く恐れがあります。ジョグパトを行うことで、地域の安全・安心なまちづくりに貢献し、環境美化活動に取り組むことができます。



つくば市では、ジョグパトを行うためのビブス、環境美化活動を行うためのゴミ袋・軍手・火ばさみを配布してくれています。

つくば市ジョギングパトロール



環境美化ボランティア



SDGsとの関連性

11 住み続けられる
まちづくりを



ジョグパトを行うことで、地域の犯罪の予防や防犯活動への関心を高めるといった安全・安心なまちづくりに貢献することができます。

12 つくる責任
つかう責任



ジョグパト中にゴミ拾いをするすることで、地域のゴミの量を減らし、環境への負荷を軽減することができます。拾った缶やペットボトル、プラスチックは分別することで本来のリサイクルの過程に戻すことができます。

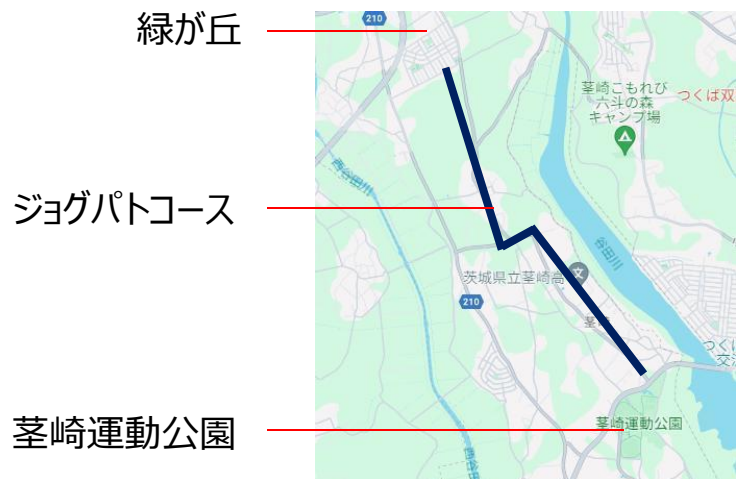
17 パートナースhipで
目標を達成しよう



ごみ拾いSNSアプリ「ピリカ」に登録することで、地域の人々が協力して活動し、パートナーシップで目標を達成することができます。

取組内容

2023年5月から月4回程度、つくば市配布のビブスを着用してジョギング、またはウォーキング中にゴミ拾いを行っています。場所は、つくば市緑が丘から荃崎運動公園までの区間往復約6.4kmです。1回の活動時間は60分～80分です。活動中はあいさつ・声かけを行います。



Google Map



汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

普段の散歩やジョギング、買い物、通勤・通学中などにビブスを着用するだけで誰もが活動を始めることができます。

ごみ拾いSNSアプリ「ピリカ」に登録することで、清掃活動を見える化でき、ジョグパトのモチベーションをあげることもできます。

持続可能性

ジョグパトのビブスはつくば市建設部防犯交通安全課で、環境美化活動を行うためのゴミ袋・軍手・火ばさみはつくば市生活環境部環境保全課で配布しているので、金銭的負担はほとんどなく活動を開始・持続することができます。

さらに、ジョグパトは自身の体力を向上させるといった健康維持にも役立ちます。ビブスは蛍光色になっているため夜間でも安全に活動することができます。

体操服・学用品おさがりプロジェクト

1 目的

解決を目指す課題・背景

成長とともに着れなくなる体操服や使わなくなった学用品をそのまま捨ててしまうのはもったいない！というところから私たちの活動はスタートしました。

当初、体操服のリユースを行っていましたが、進級進学で使わなくなった筆記用具から授業に使う学用品まで様々なものを活用してほしいという要望があり、今は、体操服に限らず、学校で使うもの全般のリユース活動を行っています。今年度から学校備品となった算数セットの寄付呼び掛けや学校図書を増やすために本の寄付も募っています。また、卒業生に学童用傘の寄付を募り、急な雨の日に使える学校置き傘として活用しています。

使わなくなった人にはごみになってしまうものも、必要とする人には価値あるものです。頂いたものを各家庭や学校で子供たちに大切に使用してもらえることがこのプロジェクトを支えるメンバーの活力です。環境に優しくお財布に嬉しい活動となっていることもモチベーション向上に繋がっています。

体操服
おさがりプロジェクト
着られなくなった体操服...
こう思ったことありますか？
体操服新しいのを買って
高い...
またお気に入りの
着たものを捨ててしま
うのはもったいない！
その体操服お守りしませんか？
してもらいませんか？
使いたい人にあげられ
ば、ゴミもへるし、
お金がかからない！



SDGsとの関連性



児童生徒が行うリユース・リサイクル活動をきっかけに保護者もリユース活動に取り組むようになり、学校が世代を超えてSDGsについて考える学びの場になっています。



「使えるものを活用する」という意識が活動の原動力になっています。



「もったいない！から欲しかった！」を繋ぐ活動」が活動の目的です。置き傘寄付は卒業生から在校生への思いやりのバトンを繋ぐ活動となっています。また、同じ学園内の小中学校保護者に声掛けし、学園全体でまだ使えるものを必要な人に繋いでいく活動を行っています。

取組内容

- ①方法：学校PTAでのリユース活動
- ②主体：小中学校の保護者
- ③対象者：小中学校の児童生徒保護者
- ④時期・期間：2021年から、通年で活動
- ⑤場所：主に松代小学校

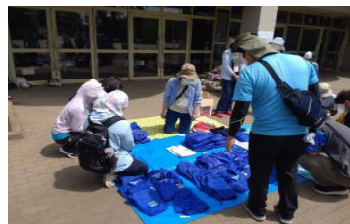
今年度夏には光輝学園3校（葛城小学校、手代木南小学校、手代木中学校）にも幅広く呼び掛けて、寄付品を各校で活用する取り組みを行った。



学級文庫



置き傘



光輝学園での配付会の様子

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

- 学校・地域の数人で実践可能。
- 参加人数により、できる回数で寄付のお願いと寄付品を配付。
- 寄付品回収は学校と相談しながら、授業の妨げにならない場所に回収ボックスを設置。
- 寄付品配付は感染症拡大の際は希望者への個別配付を行っていたが、基本的には指定の場所に広げて欲しい人に持って行ってもらうため、人手は数人で問題ない。

持続可能性

- リユース活動のため、予算0でも始められる。
- 名前の付いた寄付品には余裕があれば名消し作業を行います。寄付呼び掛けの際に名前消しの協力も呼び掛けることで負担は少なくなる。
- 目的を明確にすることと当日ボランティア制にすることで協力者が集まりやすくなる。

食品ロスを減らすために小学生の私たちができること

1 目的

解決を目指す課題・背景

【解決を目指す課題】

- ・食品ロスを少しでも減らしたい
- ・ひとりでも多くの人に食品ロスを知ってもらい、食品ロスを減らすために行動するきっかけをつくりたい

【背景】

私たちの通う学童「Kids Creation Afterschool」には、探究プログラムという面白い授業があります。これまでに園庭にツリーハウスを作るクラウドファンディング、パンのヒット商品開発、防災学習などに取り組んできました。その授業で私たちは「食品ロス」について学びました。食品ロス問題は、これまでも耳にしたことがありましたが、自分のこととして考えたことがありませんでした。日本では、1年間に約523万トン(=国民全員が毎日おにぎり1個分)の食品を捨てていると知り、本当に驚きました。大量の生ごみを燃やすのに使われる燃料や輸送にかかるエネルギーを考えただけで、環境問題にも大きく影響を与えていることがわかります。何より、まだ食べられるものがゴミとして扱われていることが残念で悲しかったです。日本では飢えている人が少ないから、食品ロスの問題を自分事として捉えている人が少ないのだと思います。でも食品ロスはひとりひとりの取り組みで減らすことができます。私たちの活動が「食品ロス削減」や「周りの人が行動するきっかけ」になればいいと思いました。

SDGsとの関連性



食品ロスは大きく分けて「家庭系食品ロス」と「事業系食品ロス」の2種類。全体の約47%を占める「家庭系食品ロス」は、毎日の生活の中で一人ひとりが意識して減らしていける食品ロスです。私たちも「おうち」で、「学童」で、日常でできる食品ロス対策をしたいと思います。



「家庭系食品ロス」対策は、学童の中だけでなく、380名ほどのKids Creationの会員の方と一緒に取り組めば、より効果があると思いました。また、「食」の専門家の方に相談したり、一緒に解決策を考えることで、より継続的に食品ロスの問題に取り組めると思いました。

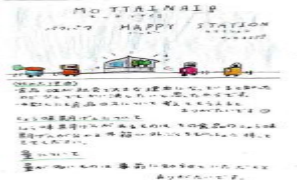


取組内容

【私たちが取り組んだ3つのこと】

1. **MOTTAINAI! ぱくぱく Happy Station**

- ① Kids Creationの会員の方から、おうちで食べきれない食材を寄付してもらい、学童生の私たちがおやつの時間においしくいただく。寄付する側もされる私たちもHappyになる取り組み。
- ② Kids Creationの学童生
- ③ Kids Creationの会員の方
- ④ 2022年1月の運用開始以来継続中。
- ⑤ Kids Creation TSUKUBA

2. **MOTTAINAI! Cooking**

- ① Cosaji小匙惣菜店(つくば市竹園)の河井美歩さんをお招きし食品ロスゼロの「ベジブロスカレー」と「大根の皮の福神漬け」を調理実習!
- ②と③ Kids Creationの学童生
- ④ 調理実習は3/1に実施。福神漬けのアイデアは3.の「メニュー開発」の時に役立ちました。
- ⑤ Kids Creation TSUKUBA

3. **「Kids Creation × 豊しん」食品ロスメニュー開発**

- ① 海鮮居酒屋 豊しんの店長 豊嶋さんから、仕込みの時に大根の皮を捨てることが多いと聞き、大根の皮を使った食品ロスゼロメニューを考案。「漬物」と「皮まで丸ごと餃子」を提案しました。
- ② Kids Creation, 豊しん, 勝手につくば大使
- ③ 豊しんさんのお客様
- ④ メニュー提案日5/29。現在も販売中。
- ⑤ 豊しん(つくば市天久保2-2-4)



汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

生きることは食べること・・・食品ロス問題は私たちが生きている限りずっとなくなるものだと思います。だから改善に向けた取り組みは、**誰もが・すぐ取り組めて、ずっと続けていけること**をポイントに考えました！食べきれない食品を寄付することは私たちの「ぱくハピ」だけでなくフードバンクなどもあります。ぱくハピが寄付制度活用のおかげになったらうれしいです。

Cosajiの河井さんや豊しんさんとの取り組みを通して、「**野菜の皮や種などの野菜くずは「ゴミではなく食材だ！」**」ということに気が付きました。野菜くずを食材だと考えれば、メニューの幅は無限に広がります。**野菜くず = 食材**をどうやって美味しく食べるかを考えることはとても楽しいので、誰でも、どの家庭でも取り組むことができると思います。

持続可能性

「ぱくハピ」はKids Creationで永続的に取り組むことが決まっています。いただいた食材を廃棄することのないようカレンダー式のボードで賞味期限の管理もしています。また、野菜くず = 食材という視点を持った人が増えれば、家庭から出る食品ロスが減っていくはずですよ。



野菜くずを使ったレシピは、専門家でなくても、誰もが考えることができます。私たちの学童保育でも調理実習の時だけでなく、ピーマンを種とわたごと炒めたものやりんごを皮ごと食べるなど、色々なフードロス削減メニューに挑戦しています。どれもおいしく、これで食品ロスが減っていると思うとうれしいです。がんばるのではなく、楽しく・おいしく取り組めるので、食品ロスの削減を継続できると思います。

コンポストを使用した生ごみの堆肥化

1 目的

解決を目指す課題・背景

ごみ焼却場の処理能力には限界があり、経費も市の財政を圧迫していることから、ごみの排出量を削減することは喫緊の課題の課題である。また、焼却に伴い発生するガスは環境に負荷をかけ、地球温暖化を加速させている。

財政、環境の改善のためにもごみの排出量を削減することは重要である。

そのために家庭で実行可能な方法として、コンポストで生ごみなど（主に野菜くずや落ち葉）を処理し、家庭菜園で堆肥として利用することは、コンポストの購入以外には費用もかからず有効な方法であると思う。

SDGsとの関連性



コンポストで生ごみを堆肥化することで、化学肥料の使用量を削減することができ、土壌が豊かになる。



ごみの焼却量を削減することにより、地球温暖化を促進する二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を削減することができる。



ごみの量を削減することで、焼却・運搬費用も削減でき、市の財政改善につながる。

取組内容

①コンポストを使用した生ごみの堆肥化



②自分と家族

④13年前から現在まで

⑤自宅庭の家庭菜園



汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

庭のある家に住んでいる人や畑を持っている人なら誰でもできる。コンポストは市が補助金を支給しており、購入を後押ししている。庭や畑がない場合でも、段ボールコンポストで堆肥化することができるうえ、不定期で市が無料配布している。

生ごみは家庭から出るごみの3割を占めているという統計もあり、コンポストを利用することでごみが減り、ごみ袋の購入費用も減少する点も取り組みを後押しすると考える。

持続可能性

コンポストはそれほど高価でなく、一度購入すると何年間も使用できる。段ボールコンポストは不定期で市が無料配布している。ごみ袋の購入費用も減少する。

生ごみは蓋つきのバケツに入れておけば虫が湧いたり臭ったりすることもほとんどなく、定期的にコンポストに移し、土や落ち葉を混ぜるだけなので、手間もかからない。

WEBSITEで地産地消を呼びかけよう！

1 目的

解決を目指す課題・背景

○課題

最近では食品ロスが問題になっている。

その原因の一つに、地元付近で作った食品の売れ残りや食べ残し、期限切れなどの、本来は食べることができたはずの食品が廃棄されることがあげられる。今は野菜などが物価高の影響で高くなっている。なのに、食品ロスの量はそこまで減っていない。

○背景

学校給食で月に一回程度地産地消メニューがでる。

地産地消が気になり、調べたらメリットとデメリットが見えてきた。

デメリットが減っていけば、より発展すると思った。

私たちは食品ロスを少しでも減らすために地産地消を進めていきたいと思った。地産地消は買い物をするときに産地に気を付けるだけで始められる。この活動を機に、より地産地消を身近に感じ、気を付けた生活をしてほしいと思った。

SDGsとの関連性



ある産業に有利な地域では、それが不足している地域まで渡らずに大量に廃棄されてしまうことがある。

例えば野菜など、新鮮な食料を欲している人がほかの地域いても、売れ残りなどで廃棄されてしまうことが多い。

取組内容

①方法

「茨城が誇る「地産地消」を他県に広めていき、自宅用苗を茨城で出荷、京都に輸送し、京都で手軽に栽培する。」

という方法と呼びかける、webサイトを作る。

②主体

これを見ている人。

③対象者

京都府の住民や茨城県の住民

④時期・期間

いつでも

⑤場所

インターネット

⇓WEBサイトのリンクです。

<https://sites.google.com/view/kasuga-reiwa5nendo?usp=sharing>

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

「一人一つの意識」から地産地消をし、より**安全**で、より**美味しく**、買うことができる。」

また、自分で野菜を育てるという体験をすると嫌いな野菜が食べられるようになったという、事例がある。これは、新鮮かつ丹精込めて育てたことが深く影響していると考えられる。

持続可能性

○持続可能性

自給自足のできる自立した県にするために永く地産地消を続けることは可能である。

また、他県とのつながりを持つことによって食品だけでなく、使わなくなった京都の伝統品（食器や衣服等）やリサイクル品等の流通も行うことができる点。

○想定される金銭的・人的・物的コスト

金銭的：ガソリン代

人的：運転手の給料

物的：苗などの原材料代

エコ修学旅行を推進しよう！

1 目的

解決を目指す課題・背景

多くの中学校が修学旅行として訪問する京都では、年間110万人（コロナ前）の修学旅行生が来ていて、京都の事業ごみも多く排出させている。現在は京都の方々の努力のおかげでごみの量は減少しているものの、実際に排出しているのは私たち旅行者だ。そのため、当事者である私たちが旅行することで出るゴミについて意識する必要があると考えた。

私たちは4月に修学旅行で京都に行った。その後、つくば市と京都のSDGsへの取り組みを比べた際、京都で「京都エコ修学旅行」を実施していると分かった。

修学旅行先の定番とも言える、京都。京都には年間110万人もの修学旅行生が訪れている。京都に行く学校全部が「エコ修学旅行」を実施すれば、よりごみの削減などができると思った。

そこで、はじめにつくば市の多くの中学校に取り組みを推進することで、全国に広めるための足掛かりとなると考えた。

SDGsとの関連性



修学旅行先（京都）の町のゴミを減らしてきれいにし、そこに住む人々が住み続けられるようにする。修学旅行で京都に来た時、きれいな町だったらここに住みたいという人が増え、定住者が増える。また、きれいな町に行きたいという観光客がふえるから、町の活性化につながる。



ゴミを減らして、二酸化炭素の排出を減らし、町もきれいにする。京都は観光名所が多く、その分、その観光地にごみが多くある。でも、エコ修学旅行によって観光地のごみ問題について学ぶことができるため、自分が他の観光地に行った時もそのゴミについて意識するようになる。すると、徐々に日本がきれいになっていく。

取組内容

- ①つくば市に向けて…
中学生の京都の修学旅行の際に「京都エコ修学旅行」に取り組むことをつくば市に提案する。
京都に向けて…
「京都エコ修学旅行」の来年の実施を提案する。
・つくば市と連携を図り、「京都エコ修学旅行」を身近に感じてもらい、SDGsについても興味を持ってもらう。
- ②11.住み続けられるまちづくりを
13.気候変動に具体的な対策を
- ③つくば市の全中学生
- ④令和6年4月1日～令和7年3月31日（一年間）
各学校の修学旅行時
- ⑤京都

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

- ・修学旅行時に
 - ①アニメティグッズを持ってくる。
 - ②エコバックの持参。
 - ③マイボトルの持参。
 - ④食事の食べ残しゼロ。
- の4つの活動と、各学校独自の「エコ・アクション+1」の実施をしていて、どれも手軽に取り組むことができる。
- ・学校全体で取り組むので、友達と協力して活動できる。

持続可能性

修学旅行は毎年行われる学校行事であるため、持続的な活動になると考えられる。

また、用意するものと言っても普段自分が使っている歯磨きなどの日常グッズ等の持参と食べ残しをしないように心掛ける心意気だけなので活動しやすいと考えられる。

さらに学校全体で取り組むという事で、友達同士で協力しながら活動できるので、積極的な取り組みになると期待できる。

エネルギー大作戦

1 目的

解決を目指す課題・背景

課題

現在の京都では、再エネの取り組みを積極的に行っている。そんな京都の取り組みをつくば市にも紹介し、取り入れてもっとつくば市の再エネの取り組みを活発にしていきたい。

背景

世界ではまだ多くの人々が電気やガスなどを使用できず、環境を汚染する薪や炭を燃やす方法で調理をおこなっていたり、現在の日本でもエネルギー発電の多くを海外からの化石燃料に依存していることが分かった。そうすると温室効果ガスの排出量が多くなり、地球温暖化につながってしまう。

また、現在のつくば市では、あまり再エネの取り組みが活発に行われていなかったり、設置するのに難しい規定や申請が必要で、簡単に再エネを設備することが出来ないと感じた。

一方で、京都ではこうした再エネ設備の取り組みを創り、「物を大切にす文化」が根付く京都から、再エネを長く大切にすることを「新たな文化」として全国に発信していこうとしている。それをもっと広めたいと思った。

SDGsとの関連性



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
(京都とつくばを比べて、課題を知り、もっとエネルギーを大切に効率的に使えるようにしていきたい)

取組内容

インターネットを使用して京都市とつくば市の再生可能エネルギーの取組みについて調べ、つくば市にも取り入れられるような取組みを考え、パワーポイントにまとめた。

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

京都市で行っている新築時や改修時の太陽光パネルの導入の推進や「ゼロ円設置モデル」などの多様な導入形態を踏まえた支援策などを取り入れ、いろいろな家庭の人に興味や理解を深めてもらい、太陽光パネルの数を増やしていきやすくする。

持続可能性

一度、住宅用に蓄電池や燃料電池を設置すれば、壊れない限り使い続けることが出来る。また、設置にかかる費用を補助してくれる取組みもあるので、負担が軽減される。壊れた太陽光パネルは、リユース・リサイクルすることで、物的なコストも削減できる。

つくば市の災害対策

1 目的

解決を目指す課題・背景

最近、大きな地震が来るかもしれないというニュースをよく耳にし、つくば市はどのような災害対策をしているのか、また、私たちつくば市民は、災害時にどのような行動をとれば良いのか気になったから。

SDGsとの関連性



災害の時に電気をみんなに届けたい



つくば市を災害に強い街にする

取組内容

京都市とつくば市の災害対策について比較し、つくば市の災害対策において、足りない点について検討した

京都市は、防災ポータルサイトを運営して、災害時に、京都市民に向かって情報発信が容易にできるようにしている。

つくば市は、いったんつくば市公式サイトにアクセスしなければならないのに加えて、災害についての最新情報をどこでみれるのかが少しわかりづらい。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

サイトを二つ運営するのは、少し大変ではあるが、災害ポータルサイトを作ることによって、災害時に、つくば市民の安全を守れる。

また、掲示板のようなものも作り、市民なら何でも書き込めるようにすることで、災害時に、被害状況を把握することも可能になると思う。

持続可能性

サイトは、特別何かなければ、ほぼ半永久的に運営できる。

つくば市の自然環境を守る

1 目的

解決を目指す課題・背景

つくば市には、筑波山や宝篋山などの山々や桜川・谷田川などの河川、そして平地林、畑地、水田が一体となった里地里山などの豊かな自然環境があり、その中に多様な生き物が息づいている

↓しかし

つくばエクスプレス沿線地区では平地林などの開発が進み、生き物のすみ処や自然景観が損なわれている場所がある

SDGsとの関連性



将来にわたって自然の恵みを享受し、生物多様性を保全していくために生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画である「生物多様性地域戦略」が策定された



つくば市で地球温暖化対策実行計画が行われた

取組内容

つくば市と京都の自然環境への取り組みについてそれぞれ調べまとめ、SDGsを知らない人に発信する
ポスターを作成する
地方公共団体や民間団体などとコミュニケーションを図り、連携した活動を行う
工場の立地や再配置において、生態系の保護などに配慮することを呼びかける

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

ごみのポイ捨てや生き物の放流の禁止を呼びかけるポスターを作成した

持続可能性

具体的な取り組み

工場の立地や再配置において、生態系の保護などに配慮する。
地方公共団体や民間団体などとのコミュニケーションを図り、連携した活動を行う。

つくば市をより良い場所にするために

1 目的

解決を目指す課題・背景

エアコンの温度を下げすぎたり上げすぎたりしないで一人一人が地球温暖化への危機感を持ち、一人一人がCO₂を減らし、温室効果ガスを全体で無くして地球温暖化を止める。

SDGsとの関連性



温室効果ガスを減らして地球温暖化を止めることにより、住み続けられるまちを作ることができると思う。



地球温暖化を止めて具体的な対策を建てられる。

取組内容

- ①市への提言書をつくった
- ②自分たち
- ③つくば市全体
- ④約四か月
- ⑤学校

ゴミの分別など、自分たちが家でできることは継続して実践しつつ、新たに、つくば市全体で、SDGsについての興味、関心を持ってもらうための僕たちの意見を考えた。その中で、「SDGsに関するイベントを開催してほしい」という市への提言を考えた。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

自分たちで何ができるか。そのために何をするか。というのを考えるのは簡単だけど、そこにたどり着くには、やはり何らかのきっかけが必要で、それがあって、自分たちもこれやってみよう。などとSDGsの輪が広がると思う。

持続可能性

タレントの方などを呼ぶ際のお金、製品を出品する際の製作費などはかかるが、SDGsに関する商品や製品を出品した場合、SDGsへの興味、関心が広まるきっかけにもなるし、そこで集まったお金で、ほかの支援団体に寄付するなど、輪を広げることできる。

また、タレントの方などが呼べないとなった場合、地元の食材を使ったグルメを出品することで、地産地消につながり、「食べてもらえなくて捨てられる」ということがなくなり、食品ロスの防止につながり、これもまた、SDGsにつながる。

つくば市内の自然とのふれあいを増やそう！

1 目的

解決を目指す課題・背景

【課題・目標】

つくば市内の自然とのふれあいを増やす。

【背景】

・修学旅行で京都・奈良に行き、奈良の動物や自然との密接さに驚き、それに対してつくば市での動植物とのふれあいの少なさに気付いた。

【方法】

- ・さまざまなもの（インターネット、ポスター、発表）を通して身近な動植物の現状を伝える。
- ・小中学生の修学旅行や校外学習で訪れる場所として動物園や植物園を推奨する

SDGsとの関連性



取組内容

①奈良市とつくば市について調べ、SDGsの取り組みを比較する。そこからつくば市に必要なことを考え、ポスターにまとめる。(気候変動だけでなく動植物にも目を向けよう)

- ②③対象は全年齢
- ④半永久
- ⑤つくば市

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

インターネットで調べポスターにおこすことや、この間の過程に仲間と協力しあうことがあるため取り組みやすいと考えられる。

持続可能性

今現在、小学一年生～つくば市からPCが支給されているため、小学生でも調べればインターネット上で知ることが出来るし、簡単に作ることが出来る。コストがすごく安い。(最低でも紙、筆記用具があればできます。)

つくろう自転車のまち

1 目的

解決を目指す課題・背景

ガスの排出量が多い車を減らして自転車を利用しやすいまちづくりを推進する。

SDGsとの関連性

11 住み続けられる
まちづくりを



ガスの排出量を減らすことによって、さらに住みやすい街が作れる。
車の利用を少なくすることで、自動車事故が少なくなる

3 すべての人に
健康と福祉を



自転車を広めることで、みんなが自転車を使って運動習慣がつく。

15 陸の豊かさも
守ろう



自動車の利用が減ることで、ガスの排出量が減り、豊かなまちづくりにつながる。

取組内容

私たちは修学旅行（2023年4月）で訪れた京都とつくば市で自転車のまちづくりに関して調べ、今現在行っていることを比較し、つくば市が行っていることをさらに広げてもらうための取組を考えました。

また、私たちが思う、行った方が良く、京都・つくば市で行っていることも比較した。

そして私たちが住んでいるつくば市が、自転車が行き交うまちになるようにつくば市に提案をする。

2023年11月まで学校で取組を吟味した。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

取組の内容が、他の人も取り組みやすいものであるか。
他の人がその取組に参加・協力しやすかったり、真似しやすいポイントなどについて記載してください。

自転車を利用しやすくなるような情報を多くの人が知る必要があるため、自転車のメリットについて知ってもらう

持続可能性

将来にわたって、持続的に取り組むことができる取組であるか。
取り組む際に必要になる金銭的・人的・物的なコストなど、取組みが持続しやすい要素について記載してください。

市役所に提案をし、市役所に置いてあるつくチャリについて広めてもらおうと思うので、実際に何かを制作はしないため金銭的・人的・物的コストは抑えられると思う

でんちゅうでござる

1 目的

解決を目指す課題・背景	SDGsとの関連性	
<p>・つくば市の無電柱化を目指す。</p> <p>(・日本の中でも京都は古い町並みや伝統などの景観維持のため無電柱化が進んでる様子を実際に見たから。 ・無電柱化のメリットが多いため。 (災害の被害の軽減、歩道の幅が広くなる、犯罪防止など))</p>		<p>無電柱化することで、多くの人にとって住みやすい街づくりにつながる</p>

取組内容

- ①つくば市に提案する
- ②春日学園の九年生
- ③つくば市の住民
- ④無期限
- ⑤つくば市内

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

- ・実践しにくい
- ・クラウドファンディングや募金に参加する

持続可能性

- ・高コストなため長期間にわたる取り組みは厳しい。

Wedサイトをつくり、食品ロスを減らす

1 目的

解決を目指す課題・背景

食品ロスや3R等の知識がなく、問題とされているにも関わらず、住民があまり問題意識をもっていないことが課題である

↓

つくば市も京都市と同じようなサイトを作成することで、様々な年代の人たちにサイトを利用してもらう

↓

買い物のときや調理のとき、保存するとき、外食するときなど、心がけひとつで普段の生活のなかで食品ロスを減らすためにできることはたくさんあることを知ってもらう

↓

食品ロスを減らす

SDGsとの関連性



取組内容

- ・食品ロスに対してのウェブサイト作り
- ➡ 食品ロスについて調べる 簡単に知れるようにする
- ・サイト作りを頼む ・質問を作ってサイトにのせてもらうようにする
- ・低学年でもわかるように歌を作る
- ➡食品ロスの例えの歌を参考にする 載せたい案を出す
- 作ってみる どういうものか知ってもらう
- 質問内容-

ロス

- Q1 あなたはスーパーの特売を買いすぎてしまう？
- Q2 あなたは新しい商品が出たらすぐを買ってしまう？
- Q3 あなたは残り物をすぐに捨ててしまう？
- Q4 あなたは給食を残す？
- Q5 消費期限の近いものから食べている？
- Q6 まとめ買いしていますか？
- Q7 買い物メモを作成している？
- Q8 冷蔵庫の中身を見てから買い物に行っている？
- Q9 期限表示を見て、買っている？

3R診断！

- Q1 マイバックを使っていますか？
- Q2 ゴミの分別をしている？
- Q3 3Rについて詳しく知っている？
- Q4 マイバックを持って買い物にしている？
(マイボトル、マイ箸 簡易包装)
- Q5 環境ラベルを見て商品を買っている？
- Q6 使い捨てではなく詰め替えられる商品（シャンプーやリンス・食器用洗剤・衣類用洗剤）を買っている？
- Q7 安くてすぐに傷んだり壊れたりするものを買っている？
- Q8 フリーマーケットを利用している？

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

- ・ウェブサイトは子供から大人まで、多くの人が利用可能
- ・説明だけでなく、クイズ形式や診断などを取り入れることで、気楽に学べる
- ・私たちのサイトで身近な食品ロスや日頃どういう行動をとるべきなのかを知れ、日常生活に取り入れやすく成る

持続可能性

- 〈将来にわたって持続的に取り組むことができる取り組みか〉
- ・ウェブサイトを広める
- 〈金銭的・人的・物的なコストについて〉
- ・食品ロスについての説明と、診断などのゲーム感覚でできるものをサイトに取り入れる予定なので、人的に、サイト作りかつプログラミングができる人が必要
- ・コストはあまりかからない
- ・食品ロスについて分かりやすく知れる

茨城と京都のSDGsの相違点と対策

1 目的

解決を目指す課題・背景

- ・子供の教育のための総合交付金の援助による教育環境日本一を目指した取り組み
- ・地域の魅力・認知度の向上
- ・新事業の創出の促進

SDGsとの関連性



茨城と京都の子供の教育援助の違いについて調べ考えた
事業内容をまとめ考えた



周遊観光促進に向けたコンテンツの充実、周遊観光促進に向け情報発信、販路拡大と介助士サービスについて調べ考えた



ジェンダー政策の研究と教育と海外の高付加価値型常設店舗の開設の支援について調べ考えた

取組内容

- 1番 貧困をなくそう
- 3番 すべての人に健康を福祉を
- 5番 ジェンダー平等を実現しよう

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

取組の内容が、他の人も取り組みやすいものであるか。
他の人がその取組に参加・協力しやすかったり、真似しやすい

簡単で誰でも行うことができるため、積極的に行える

持続可能性

将来にわたって、持続的に取り組むことができる取組であるか。
取り組む際に必要になる金銭的・人的・物的なコストなど、取り組みが持続しやすい要素について記載してください

茨城の大学の教授と協力して行える取り組みのため、持続的にできる取り組みであると分かった

京都市では教育に対して総合交付金を給付したりなどの、持続的な取り組みが行われているため、茨城県でも取り組んでほしいと思った

茨城のSDGs活性化させよう

1 目的

解決を目指す課題・背景

茨城の豊かな自然を利用して茨城でしかできないことをする茨城の持つ霞ヶ浦の水質をよくする私たちが修学旅行で訪れた京都、奈良、滋賀では様々な国や地域から人が観光に来ている。そこで一つの疑問が浮かんだ、なぜこのようなところでは多くの人を訪れとても美しい風景が持続できるのかをSDGsからの観点で茨城と比較し茨城の魅力をSDGsとともにみんなに伝えようと思いました。

SDGsとの関連性



3Rをもとに消費者のすべきことを知らせる



より環境の良い街にする



一人一人がSDGsについて興味を持ち、結果的に陸の環境がよくなる

取組内容

京都滋賀奈良のSDGsをどのような取り組みをし、そこに住んでいる人が協力しているかをしらべ茨城と比べて相違点をみつけ、茨城で子供や高齢の方でもできるような方法を見つけ実際に取り組む、または、呼びかける。また、新しいSDGsの案を提案する

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

インターネットを用いて茨城と京都、奈良、滋賀の共通点、相違点を調べ、これをポスターを通してみんなと共通し各々が自主的に何ができるかを考える機会を提供する

持続可能性

ポスターで呼びかけるような取り組みなのでコストは低く、見てもらった人により考え方は異なるので日々新しい考えが出るので持続的に取り組むことができる

茨城を応援しよう！！

1 目的

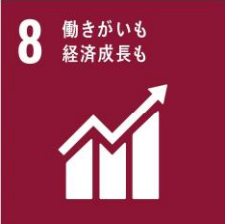
解決を目指す課題・背景

茨城の魅力をみんなに伝えたいと思ったから、日本は京都と比べて魅力が京都ほど伝わり切っていないので茨城の魅力をみんなに伝えたい。

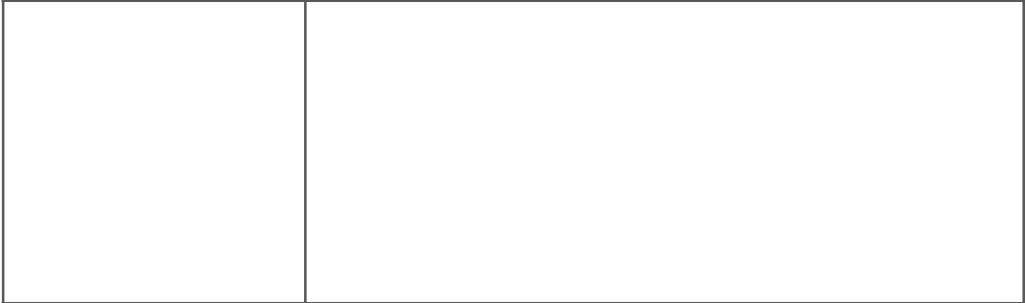


茨城の山と京都の山を比べる

SDGsとの関連性



茨城県の魅力を伝え、茨城県の観光客を増やし経済成長する



取組内容

- ①方法 パワーポイントにまとめてポスターにし茨城県の魅力を学校の人に伝える。
- ②主体 8班
- ③対象者 学校全員
- ④時期・期間 今
- ⑤場所 学校

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

特に難しいことはなく茨城の魅力を伝えるだけなので汎用性は高いと思う。

持続可能性

ポスターを学校に置くことでこれからも残っていくので将来にわたって、茨城の魅力を伝えることができる。

海をきれいにする

1 目的

解決を目指す課題・背景

海にあるプラスチックの量を減らす
海に流れるプラスチックの量を減らす

SDGsとの関連性



取組内容

インターネットでプラスチックの現状の問題、解決策を見つけ、powerpointにまとめました。

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

マイバッグ、マイボトルを持参する、ポイ捨てをやめるなどの取り組みやすい内容です。

持続可能性

マイバッグ、マイボトルは、一回買えば何回でも使うことができるので持続性があります

街の共存を守れ！！

1 目的

解決を目指す課題・背景

京都はとても観光スポットが多く、経済的にも観光業のおかげで賑わっているが、観光地では、ごみ問題、混雑、などたくさんの問題が起こるため、観光地化する方がよいとは言えない→観光地化に問題

つくばは、バスや電車など、時刻表などが限られている場所で見れないため、時刻表を見慣れていない人は大変なのでぱっと乗りにくい。大都市でもない限り、電車やバスだけで市内を行き来するのは非現実的→公共交通網に問題

SDGsとの関連性



ごみ問題 etc.



まちづくり



ごみ問題 etc.

取組内容

- ①自分たちが修学旅行訪れた場所と、つくば市の歴史的建築物を比較する
- ②わたしたち
- ③学生
- ④修学旅行（4月）
- ⑤京都

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

簡単ではない

比較するだけなら誰でもできるぜ☆

持続可能性

将来にわたって、持続的に取り組むことができる取組であるか。

できない

取り組む際に必要になる金銭的・人的・物的なコストなど、取り組みが持続しやすい要素について記載してください。

京都と茨城往復するので時間・コスト・労力がかかる

各地域の発電方法と発電量を調べる

1 目的

解決を目指す課題・背景

<課題>

- ・地域に合った環境に良い発電方法を見つける
- ・各家庭が節電を取り組めるような方法を見つける

<背景>

- ・滋賀県の発電量が気になり、調べたら、風力発電などの地域、環境に適応した発電方法で発電していた。

SDGsとの関連性

11 住み続けられる
まちづくりを

住み続けられるまちづくりを

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

産業と経済革新の基盤をつくろう

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

取組内容

- ①調査方法：インターネットの活用をして調査する
- ②内容：
 - ・近畿地方の各県と茨城県の電力量や発電量、消費量の比較をして環境に良い地域に合った発電方法を見つける
 - ・調査結果を提案する
- ③対象者：全世界の人
- ④期間：一年中
- ⑤場所：インターネット上の配信

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

- ・他の人も簡単に調べることができる
- ・家の発電量や消費量と全国の家庭の全国平均などを比較することで、自分の家の発電状況が分かる課題も見つかる
例) 全国平均よりも消費量が上→節電を心がけよう など

持続可能性

- ・お金もかからず、金銭面で困らない
- ・インターネットで簡単に調べることができるため、いつでもどこでも分析することができる
- ・だれでもできる
- ・データがあればすぐに比較できる
- ・自分の住んでいる地域の環境に適応した発電方法を試してみることで持続可能な社会を目指せる。

健康お披露目隊

1 目的

解決を目指す課題・背景

- ・茨城県民に健康について興味を持ってもらう
- ・茨城県民に健康に対する取り組みをしてもらう
- ・茨城県の都道府県別の平均寿命ランキングでは男性が30位、女性が43位と低い順位となっている。

順位	都道府県	平均寿命	順位	都道府県	平均寿命
29	島根	78.49	29	鹿児島	85.70
30	茨城	78.35	30	徳島	85.67
31	福岡	78.35	31	愛媛	85.64
32	佐賀	78.31	32	山口	85.63
33	北海道	78.30	33	兵庫	85.62
34	鳥取	78.26	34	三重	85.58
35	愛媛	78.25	35	岐阜	85.56
36	大阪	78.21	36	千葉	85.49
37	長崎	78.13	37	岩手	85.49
38	山口	78.11	38	群馬	85.47
39	徳島	78.09	39	福島	85.45
40	栃木	78.01	40	愛知	85.40
41	和歌山	77.97	41	和歌山	85.34
42	福島	77.97	42	埼玉	85.29
43	鹿児島	77.97	43	茨城	85.26
44	高知	77.93	44	大阪	85.20
45	岩手	77.81	45	秋田	85.19

引用元：厚生労働省：
平成17年 都道府県別
生命表の概況 (mhlw.go.jp)

SDGsとの関連性



取組内容

・平均寿命ランキングで上位にいる京都や奈良の健康に対する取り組みと茨城の取り組みを比べてポスターを作成した。



・このポスターを使って茨城県民に健康に対する取り組みを知ってもらう。

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

・家庭内で行える取り組みやネットで調べてできる取り組みを呼びかけているため、誰でも簡単に取り組みを行うことができる。
・ポスターの中で大事なところの色を変えることで一目見ただけでやるべき取り組みを知ることができる。

持続可能性

・この取り組みは日ごろから欠かさず行うことで習慣化させることができるため、長い期間続けることができる。
・長い期間続けることでより健康的な生活を送ることができる

京都と茨城の自然の量の違いと原因を調べる

1 目的

解決を目指す課題・背景

修学旅行で京都に行ったときに茨城との自然の量の違いに驚いたので、量の違いの原因を知りたいと思ったから。

SDGsとの関連性



植物を守るとこのゴールを守ることに繋がる



陸の豊かさを守るとごみが減るので陸の豊かさを守ることに繋がる



自然の量の違いが地球温暖化対策につながると思ったから

取組内容

- ①グリーンカーテン
- ②小学生
- ③生徒
- ④6月から9月上旬まで
- ⑤校舎

修学旅行で京都に行ったときに茨城との自然の量の違いに驚いたので、量の違いの原因を知りたいと思ったから。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

枯れてしまった葉を取ったり、水やりしたりすれば、育つので誰でも取り組めると思う。

持続可能性

種代、水道代など
週に何回か水やりが必要

鹿せんべいぷろじえくと

1 目的

解決を目指す課題・背景

○課題

鹿せんべいを作ることで奈良公園の鹿の食糧不足や栄養失調等の問題を軽減すると同時に、廃棄の野菜を使うことで茨城県の食品ロスを減らすことを課題とした。

○背景

奈良公園の鹿がやせていたり、毛の質が良くなかったことから鹿の健康状態があまり良さそうではないと感じた。このことに疑問を持ち、健康状態に大きく関係してくる「食事」に注目し鹿について調べた結果、鹿せんべいはあくまで「おやつ」であり、通常は奈良公園の雑草を食べている（べきである）ことを知った。

しかし、実際に修学旅行で行った奈良公園では鹿の頭数に対する雑草の量が少なすぎるのではないかと私たちは考察し、鹿たちは栄養が足りていないのではないかという仮説をたてた。そこで私たちは不足している栄養を補うことができ、かつ人も楽しめるような「鹿せんべい第二号」を作ることにした。

SDGsとの関連性



鹿の食糧不足の軽減
食品ロスを減らす



鹿の健康状態を助ける

取組内容

- ①鹿せんべいの作成
⇒数種類の栄養を含む鹿せんべいを作成し、鹿たちの栄養不足の解消を図る
- ②春日学園生徒(鹿せんべい班)
- ③鹿、人
⇒奈良公園の鹿を対象とする
- ④中学三年生の間
⇒今年いっぱいに行う予定
- ⑤学校、各メンバーの家庭

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

材料さえ揃っていれば、家にあるもので誰でも作れると思う。実際に、鹿を所有している団体に提案することができると汎用性が向上していくと思う。問題点として、多くの家庭で実施していくことを考えると、どこかに送ることは難しいので自分たちで食べることになるが比較的取り組みやすい。
→農家と提携し、商品化できない野菜等を安価で取引して、活用していくことができれば、より汎用性が増すと考えられる。

持続可能性

持続的に取り組めると思う。
材料に廃棄食品を使えば金銭的に金額を抑えることができ、作ろうと思えば一人でも取り組めるため取り組みが持続しやすいと思う。

使用した材料

- ・水
- ・米ぬか(きな粉で代用可)
- ・野菜(人参、小松菜)

世代関係なく取り組む

1 目的

解決を目指す課題・背景

去年のSDGsで野菜を育てたことから、京都と茨城県の特産物で何か応用ができないか考えた。そして、それぞれの特産物を使った料理を考えた。そうすることでそれぞれの特産物を知るきっかけにもなり、栄養補給ができたりと一石二鳥になるのではないかと考えた。

京都と茨城の特産物を知る

それぞれの特産物を使った料理を考えつくる。

(もしくはフルーツ系統)

それぞれ飢餓を減らす方法を知る。

SDGsとの関連性



貧困を減らす一つのきっかけになる可能性がある。
自給自足につながり飢餓が緩和される。



栄養を考えて料理を作れかつ、アレンジもできる。



野菜を育て少しでもCO2削減につながる可能性がある。

取組内容

まず、それぞれの野菜や果物の特産品を知り、料理を考えて料理を作る。特産物があれば料理は基本誰でも取り組め、時期もいつでもできるため場所も基本問わない。もしくは特産物を育てることにする。この場合時期が育つ時期に限られ、場所も限られてくる。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

料理の場合、栄養も考えた上でアレンジができるため、多様性がある。

育てる場合、自然を知ることにもできるが、時間に余裕が無かったり場所がない場合行いにくい。自給自足にもつながる可能性がある。

そして、両方に共通するメリットは家族や学校などで子供に教えることにも繋がると思う。

持続可能性

個人でも取り組め趣味でも取り組めることができるため、継続で取り組むこともでき、金銭面も再利用できるものもあるため最初よりかは、削減できるメリットがある。

地域ごとの特色について学ぼう

1 目的

解決を目指す課題・背景

どのような課題の解決を目指しているのか、課題の内容について記載してください。

歴史的な建物にもどのような安全で災害に強い工夫がされているのかまた、歴史的な仕事を調べたいから。

茨城県と京都の町の違いがどのようなものか調べたいから。

SDGsとの関連性



取組内容

①方法

アンケート調査を行った。インターネットで詳しいことについて調べた。

②主体

昔ながらの環境が残っていて、伝統的なところはことが多い京都ではあるが、その分建造物・見た目などを意識しすぎてないか。

③対象者

小学生以上

④時期・期間

年中いつでも

⑤場所

取り組めるいろいろな場所

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

私たちが参考にした資料はインターネット上に多くあるので他の人でも調べることができる

持続可能性

- ・学区の小学校などへのベルマークの寄付。
- ・地域内でおこなわれるボランティア活動への参加。
- ・地域の施設や団体が運営するバザーへの商品提供や購入。
- ・お祭りの手伝いや、客としての参加。

筑波の未来構想を考えよう

1 目的

解決を目指す課題・背景

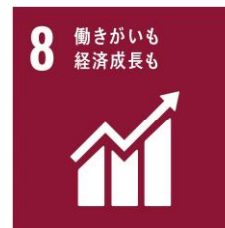
課題

つくば市をより良い住みやすい街にするために、発展している京都市とつくば市を比較し、つくば市の未来の構想を考える。

背景

つくば市の人口増加率は上がっているのに京都より発展速度が遅いのはなぜなのかが気になり、調べていくうちに大きな違いがあることに気づいたから。

SDGsとの関連性



取組内容

- ①方法
ポスターを掲載し、つくばの現状を知らせる。
- ②主体
自分の班
- ③対象者
自校の全生徒
- ④時期・期間
三カ月
- ⑤場所
自校の全フロア

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

ポスターを全フロアに掲示することで、全生徒の目に入りポスターを読んでもらうことでポスターを見た人が、今のつくばの現状について危機感を抱き、少しでもつくばを変えようという気持ちを持ってもらうこと
知識を持つということはだれでもできることで、とても取り組みやすいと考える。

持続可能性

ポスターを掲示する期間を延長したり、期間終了後新しいポスターを掲示することで、持続可能性を作り出していく。

伝統Reuse

1 目的

解決を目指す課題・背景

つくば市及び茨城県の伝統文化とSDGsを結びつける。

京都に修学旅行に行った際、京都について調べると、京都では伝統文化を生かしたSDGsの取り組みがあることが分かった。

これをつくばや茨城県の伝統文化にも生かせるのではないかと考えた。

SDGsとの関連性



伝統的な工芸品などにおいて、製造の過程で出る廃棄物や、廃棄するはずだったものを再利用することでSDGsに結び付ける。

持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めていくことに繋がる。

取組内容

京都の伝統文化や歴史について調べ、京都に行って伝統や歴史、文化に触れた。

つくばに帰って京都とつくばのごみの排出量やSDGsへの取り組みについて調べ比較すると、京都とつくばには同じ「SDGs未来都市」であるという共通点があることや、つくばに対し京都はごみの排出量を大幅に減らすことに成功しているという相違点があることが分かった。

また、調べ学習の中で京都には伝統文化にSDGsを関連させている(伝統的な染め物を利用したリユース活動など)ことが分かり、これをつくばや茨城に生かすため、つくばや茨城の伝統文化についても調べた。

これからの展望として、私たちが主体となってつくばや茨城の伝統文化をSDGsに結び付ける活動をしていきたい。

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

このような活動を通して伝統文化・伝統工芸で、SDGsについての理解が深まれば、全国の様々な場所でSDGsに取り組む事業を増やすことができる。

持続可能性

京都府の伝統的な食べ物や工芸品のように、伝統という受け継がれてきたものにSDGsを取り入れることは、これからも持続的に取り組みやすい内容である。

日本を効率よく成長させる

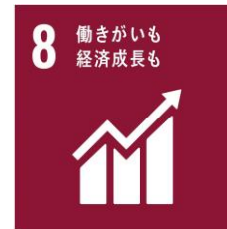
1 目的

解決を目指す課題・背景

京都では火災対策に費用を費やしている。周辺住宅地で火災が発生した場合を想定し、隣接する塔頭寺院外壁と建物に延焼防止システムを導入したり、境内、塔頭寺院あわせて119の消火栓、伽藍横の放水銃26基を設置し、遠隔装置でエンジンポンプを起動すれば誰でもどこでも放水できるようにしたりなど、いろいろな工夫が施されている。

茨城では、進展する地方創生の流れの中で、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立し、過疎地域の持続的発展を図るため、移住・定住・地域間交流の促進、人材育成、産業の振興、交通施設の整備、交通手段の確保の促進など地域づくりの基礎となる施策を着実に進めながら、「豊かさや新しい価値を生み出す強い産業」、「誰もが安心できる安全で豊かな暮らし」、「次代を担う夢・希望に溢れる人・地域」を基本的な方向として検討をしている。

SDGsとの関連性



経済が回りやすい街づくりという点。



みんなが取り組みやすいという観点からも、持続可能であるという点。

取組内容

京都と茨城の経済の回しかたにはそれぞれの利点があるので、違いを探し、県民に呼びかけることで、今の日本にできる範囲で対策していくこと。

安全・持続可能という面も意識し、活動していく。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

実際にやってきたことを別の人がやるという取り組みのため簡単である、また今までの生活に自分の立場でできることに少しだけ工夫を加えるだけである。

持続可能性

シンプルで分かりやすく、汎用性が高いため、自分だけが取り組んでいるという場合が少なく、続けやすい。

琵琶湖と霞ヶ浦

1 目的

解決を目指す課題・背景

水質の違いに興味を持ったから
調べたこと 琵琶湖と霞ヶ浦の水質・生物

SDGsとの関連性



水質観点



環境観点



陸地の環境観点

取組内容

- ① 水質調査 (cod)
- ② 私たち
- ③ ジヒドロゲンモノオキサイド
- ④ 一週間
- ⑤ 桂木公園

汎用性 (他の人も実践しやすい取組か)

あまり汎用性はないがある地域で一人でも取り組みする人が増えると少ない人数で効果科的な取り組みといえる。

持続可能性

水質を一定に保つことができるため持続して行う必要がある。
また次の世代に伝えるためにも継続する必要がある。

気候変動に具体的な対策をし、住み続けられるまちづくりをする。

1 目的

解決を目指す課題・背景

- ① ゴミの排出量を減らす
- ② 二酸化炭素排出量へらす

つくば市でもタバコなどの小さいゴミが落ちていることが多くみられるから、綺麗なつくば市を目指そうと思った

持続可能な世界にしていくために、二酸化炭素排出量の減少をつくば市から実施していく。ゴミの減少によって、ゴミ処理から発生する二酸化炭素排出量も減少できると考え、まずはゴミの量を減らしていくことに努めた。

SDGsとの関連性



ゴミを減らすことで住みやすい街にする



二酸化炭素の排出量を減らす

取組内容

- ① 学校にて、ゴミを減らす呼びかけを行う。
 - 春日学園からゴミの減少を広げていくポスター作成
 - ゴミを減らす意識の向上を目指すゴミ拾いボランティア募集
 - 今後は春日学園生徒だけでなく、つくば市全体でゴミの減少をしていくために、ボランティアを募り、ゴミ拾いを定期的を実施していく。
- ② 春日学園の九年生が活動を実施してきたが、これをつくば市全体に広めていきたい。
- ③ つくば市の人
- ④ 1年間ぐらいかけて活動を実施し、周知していく。
- ⑤ 春日学園周辺のみの実施であったが、今後はつくば市全体に広めていく。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

- ポスター制作は費用などもあまりかからない活動なので汎用性がある
- 地域などの活動、個人的な活動としても行いやすいものなので汎用性はある（ゴミ拾い）
- 春日学園だけでなく、他の学校と連携しながら活動を実施できると、活動範囲が広がっていくと考えられる

持続可能性

- 基本的に予算が必要な活動ではないため、活動を計画する運営者とその声に応じて活動をしてくれる人たちがいれば、これらの活動は持続可能である。この小さな積み重ねが住みやすい街づくりにつながっていくと考えられる。

外来種と生態系

1 目的

解決を目指す課題・背景

課題

絶滅危惧種・天然記念物・外来種の対策方法を考え提案したい。

背景

修学旅行先で、京都府や奈良県、滋賀県などをみて茨城県との生態系の違いに興味を持ったから。

SDGsとの関連性



気候変動などが起こると、絶滅危惧種の絶滅の危機の危険性がより悪化してしまう関連性がある。



海は山とつながっており、水は循環するため海の豊かさが守られると「15.陸の豊かさも守ろう」や、海の生物と深くかかわる絶滅危惧種な外来種にも関係があるため



陸の豊かさは生態系・外来種・絶滅危惧種などの生物に深くかかわっている目標という関連性があるから。

取組内容

インターネットや本を駆使して、現在どのような生態系（主にどのような種類が絶滅の危機に瀕しているのか。また、天然記念物、外来種に登録されているのか。）現在、どのような絶滅危惧種・天然記念物・外来種に対する対策があるのかを調べた。また、その対策を踏まえてほかにどのような対策があるのかを考え持続可能な対策なのか考えた。

汎用性（他の人も実践しやすい取組か）

インターネットや本は誰もが気軽に使えて簡単に情報を入手できる手段だから誰でも取り組みやすいと思う。
また、対策を実践することは誰もができるというのは難しいと思うが、対策を考え出し提案するのは誰もができることだと思う。

持続可能性

対策の実践には金銭的にも人的にもコストが大きいかもしれないが、インターネットや本で調べることは図書館などを利用すれば金銭的成本は低く、現在ある対策を踏まえてより効率的な対策を出すのは少人数でもできるため持続的に取り組むことができると思う。